

2023 年度第 2 回 JSSR 指導医制度委員会議事録

日時：2023 年 5 月 26 日（金） 19 時～19 時 50 分

WEB 開催

参加者：田中信弘（担当理事）、相澤俊峰（委員長）、伊藤康夫、坂井顕一郎、竹林庸雄、出村 諭、平井高志、星野雅俊、森本忠嗣、宮崎正志、吉田 剛、渡邊航太、橋本顕二（事務局）、（敬称略）

1. 日本専門医機構脊椎脊髄専門医試験の本格導入に伴う移行期間の終了について
下記のように田中理事から説明があった。

- 2023 年から日本専門医機構脊椎脊髄専門医の研修が開始された。本制度の最初の試験が 2025 年度に行われる。
- 現在 JSSR 指導医は移行措置により比較的簡単なテストで脊椎脊髄専門医を取得できるが、この措置が 2024 年末で終了する。
- JSSR 学術集会での専門医試験は 2024 年の学術集会（2024 年 4 月 18 日～20 日、パシフィコ横浜、渡辺雅彦会長）で最後となるため、まだ専門医を取得されていない指導医には、できるだけこの時に試験を受けてもらうよう、（おそらく）専門医制度委員会からアナウンスがある。
- 2023 年に指導医➡2024 年に移行措置中の専門医取得を会員に勧める。
- そのため 2023 年度の指導医の新規の審査を少し早め、12 月中に理事会の承認が得られるようなスケジュールで行いたい。

2. 指導医申請要項の見直しについて

目的

新たに脊椎脊髄外科専門医が専門医機構より認定された。新しい専門医が設定されるにあたり、脊椎脊髄外科指導医の立場も、現代の医療事情や社会的ニーズに即して改新される必要がある。本来、脊椎脊髄外科指導医は、脊椎脊髄外科専門医を指導する立場であり、手術的技量においても本専門医と明確に差別化されるべきである。脊椎脊髄外科指導医は、ある特定の領域に偏ることなく、脊椎脊髄外科全般にわたる知識と技術が求められることから、ここに脊椎脊髄外科指導医申請要項を変更する。

現行

専門医機構の脊椎脊髄外科専門医の主な申請条件

- 1) 手術症例の提示：100 例（うち執刀医としての症例数 50 例以上）
- 2) 執刀には腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、頸椎前方固定術、頸椎後方除圧術の 4 つを含むこと
- 3) 以下の症例を第一助手として経験することが望ましい：脊髄腫瘍摘出術、胸椎腰椎前方固定術、頸椎後方固定術、腰椎後方固定術
- 4) 論文・発表：3 編（筆頭は問わない?）

JSSR の脊椎脊髄外科指導医申請条件

- 1) 手術症例の提示：300 例、うち執刀 200 例以上、頸椎 20、腰椎 60 以上
- 2) 論文・発表：5 編（1 編は筆頭著者、筆頭演者、ほかは共同執筆・演者で可）

4 月 27 日の理事長、専門医委員会、指導医制度委員会での話し合いで決まった方針。

1. 脊椎脊髄病指導医の地位を明確に脊椎脊髄外科専門医の上にする
2. 脊椎脊髄病指導医は脊椎脊髄外科専門医を指導する立場である
3. 指導医は「手術技術認定」の側面を持つ
4. JSSR と日本脊髄病学会（NSJ）の信頼問題に関わることから、専門医取得までの研修期間に学会間の差をつけない。2023 年度から脊椎脊髄外科専門医の研修が始まるので、2 年後 2025 年に移行期間後最初の脊椎脊髄外科専門医の試験が行われる。脊椎脊髄外科専門医取得が指導医受験の必要条件となる。これに合わせるために、2024 年は指導医の募集は行わない。

事務局で作成した改定案を元に審議を行い、以下のような改定案とした。

改定案

- 1) 日本専門医機構の脊椎脊髄専門医であること。
- 2) 手術症例の提示：300 例、うち執刀 200 例以上とする
手術には以下の手術症例が含まれることとする。

以下のカテゴリーの手術執刀を必ず含むこと = 専門医に指導する立場であることから、専門医が MUST である 4 つの手術については、指導医はこれを

指導する立場であり、より多くの経験をしている必要がある。下記を提案する。

1. 腰部脊柱管狭窄症（術式は問わない）：20 例
2. 腰椎椎間板ヘルニア（術式は問わない）：20 例
3. 頸椎前方固定術：5 例
4. 頸椎後方除圧術：20 例

また、専門医が助手として経験することが望ましい症例も、執刀できるレベルにあることから、以下の症例を各最低 1 例以上、合計 20 例以上経験していること。

1. 脊髄腫瘍摘出術（馬尾腫瘍を含む）
2. 胸椎腰椎前方固定術（LLIF を含む）
3. 頸椎後方固定術
4. 腰椎後方固定術

3) 発表・論文 5 編以上

筆頭著者としての論文 3 編を含む論文および発表 5 編以上（筆頭著者の 3 編以外は論文・発表とも共著者、共同演者可）

3. 2025 年の指導医認定について

- 専門医機構の脊椎脊髄外科専門医の新規認定が 2025 年 10 月 1 日の予定である。現状のスケジュールだとこの専門医の取得後に、指導医の申請→審査はかなりタイトである。
- 2024 年、2025 年と指導医の新規申請を見送るのもどうか？
- 専門医を取得してから指導医を取るまでの研鑽期間を理事会がどのように考えているかが問題。明確に専門医と指導医を差別化するなら、専門医取得後何年で指導医申請の有資格者となるか決めるべきでは？
- 田中理事から理事会にお諮りしていただくこととなった。